

会長コラム

ソラヤ・シーダット博士 (MD, PhD), ISTSS 会長

ボストンで開催された第 40 回 ISTSS 年次総会から、もう 3 か月近くが経とうとしていることが信じられません。科学的進歩を披露し、私たちの学会が今日の姿へと成長・変革してきた過程を振り返る、まさに刺激的で感慨深い記念すべき祝典となりました。私が ISTSS 会長の役職に就いてからも、同じく 3 か月が経ちました。この役割を担うことを光栄に思い、大きな熱意をもって取り組んでいます！ISTSS がさらに大きく、そしてより速く発展できるよう、今後 1 年間さまざまな面で尽力していく所存です。

トラウマストレスの分野が進化し続けるのと同様に、私たちも変化しなければなりません。私の重要な目標の一つは、より幅広い専門職や学問分野の人々を ISTSS に迎え入れることです。これには、多様な背景を持つ臨床家、研究者、支援者を積極的に招き入れることが含まれます。ISTSS はこれまでに一部の会員を失っており、特に医療関連職の会員が減少しました。しかし、ISTSS は 10 年前とは異なる形へと発展を遂げており、こうした会員の皆様が再び戻ってきてくれることを願っています。国内外の会員数を増やすことは、私たちの専門性を高め、影響力を拡大するだけでなく、ISTSS の財政基盤の安定にも貢献します。ISTSS が、トラウマとレジリエンスの持つ多様でグローバルな側面を、今以上に反映する存在へと成長できるよう努めていきます。もし、各会員が 1 人ずつ、これまで十分に代表されてこなかった専門職や地域から新たな会員を、この一年で招くことができれば、ISTSS の影響力は大きく広がるでしょう。

ISTSS が真に国際的な学会となるためには、単に会員数やアウトリーチを増やすだけでなく、地域や各国の専門機関と協力し、グローバルサウス（発展途上国）の多様な声を年次総会や組織構造の中に取り入れることが不可欠です。しかし、年次総会への渡航費用は低・中所得国の若手臨床家や研究者にとって大きな負担となっています。この課題に対処するため、ISTSS のリーダーシップと皆さんの協力のもと、渡航費支援の拡充に向けた機会を模索していきたいと考えています。

このためには、営利組織および非営利組織との戦略的パートナーシップを通じて収益源を多様化する必要があります。学会の運営や年次総会の開催には多大な費用がかかるため、財政的なサステナビリティの確保は極めて重要です。この方針のもと、収益委員会は ISTSS の「スポンサーシップポリシー」の改定を進めています。これは、年次総会および、教育・研修・継続的な専門技術の開発などを含む本会の、その

他多くの活動に対して、スポンサーシップの勧誘と確保のための、より明確な道筋を提供するためのものです。

今後数か月間で、以下の活動を進めていきます。

まず定款のアップデートと近代化を進める締約改訂のタスクフォースが現在進行中です。今年中に会員の皆様にレビュー・承認をお願いする予定です。

そして二つ目には、ISTSS PTSD ガイドライン開発委員会を現在立ち上げています。2025 年第 1 四半期には審議を開始できる見込みとなっています。

三つ目には、ISTSS の倫理規定 (Code of Conduct) の改訂を行い、SIG (Special Interest Group 特別関心グループ) の運営ルールを策定しています。こちらは 2025 年初頭に公開予定です。

どの学会においても、学会が成長していくには、チャレンジが生まれてきます。多様化し拡大する会員のニーズに対応しながら、財政の安定性を維持し、ISTSS のリソースへの公平なアクセスを確保することが重要です。さらに、大規模な人道危機や気候変動に関連するトラウマなど、世界的な課題に対しても、私たち ISTSS は迅速かつ積極的に対応していく必要があります。そのためには、研究・臨床実践・教育・支援活動の厳密性を高めることが不可欠です。幸い、ISTSS には非常に意欲的で献身的な理事会があり、執行委員会・タスクフォース・各種委員会・SIG リーダーと連携しながら、全会員にとってより良い ISTSS を築くために努力を続けています。

2024 年も年末が近づいてきましたが、皆様にとって、この時期が、祝福と新たな活力、そして平和に満ちた時間となることを願っています。来年、2025 年には ISTSS のさらなる発展に向けて、皆様と共に多くのことを成し遂げられることを楽しみにしています。皆さまが、ISTSS のかけがえのない一員でいてくださることに、心より感謝申し上げます。